

令和4年度 指定管理施設運営状況評価表

1. 施設の概要

施設の名称	むつ市下北自然の家	
指定管理者	団体名	一般財団法人 むつ市教育福祉振興会
	代表者	理事長 櫻井以文
	所在地	むつ市大畑町観音堂25-1
指定期間	令和2年4月1日～令和5年3月31日（3年間）	
指定管理業務の概要	1、施設の使用許可に関すること。 2、施設の利用料金の徴収に関すること。 3、食事代、クリーニング代及び教材費の徴収に関すること。 4、青少年の集団宿泊生活の指導及び助言に関すること。 5、野外活動、体育及びレクリエーションに関すること。 6、自然観察その他の自然に親しむ学習活動に関すること。 7、施設の維持、管理及び修繕に関すること。 8、施設の特性を生かした利用促進に関すること。 9、その他施設の設置目的を達成するために必要なこと。	

2. 収支の状況 ※消費税及び地方消費税を含んだ額を計上すること。自主事業分は含まないこと。

※原則として他会計からの繰入金及び他会計への繰出金は含まないこと。

※人件費には、経常の指定管理業務にかかる人件費のみを記載し、臨時的な日雇い雇用などの賃金を含まないこと。

単位：千円

区 分	計 画 額 ①	実 績 額 ②	増 減 (②-①)
収入合計 (A)	93,253	91,506	▲1,747
うち利用料金額	7,190	4,432	▲2,758
うち指定管理料	86,033	86,928	895
支出合計 (B)	93,253	92,687	▲566
うち人件費	59,473	60,832	1,359
収支差 (A-B)	0	▲1,181	▲1,181
市への納入金	0	0	0
計画額と比較した実績額の増減理由	<p>収入</p> <p>収入合計のうち、利用料金額は年間計画額7,190千円に対して、実績額は4,432千円だった。計画に対する達成率は62%となっている。</p> <p>今年度の利用料金額（4,432千円）は、前年度（3,190千円）と比較すると、1,242千円増加となっている。増加の主な要因は、新型コロナウイルス感染症対策の緩和に伴い、学校等の利用が戻りつつあることと、スポーツ団体等の宿泊利用や冬季の日帰り利用団体の増加である。また、指定管理料では電気料金が高騰したことで補正があったことから金額に増減が生じた。</p> <p>支出</p> <p>支出の執行額は、全体の年間計画額93,253千円に対して、実績額は92,687千円だった。計画に対する執行率は99%となっている。今年度は経費による施設設備等の修繕があったが、定期的な日常点検を実施し、計画どおり実施したことで軽微な支出が減ったことから、今年度実績額（92,687千円）は、</p>		

前年度実績額（93,861千円）に比べ1,174千円少なくなった。

3. 施設利用の状況

単位：人

利用者数	区 分	計 画 ①	実 績 ②	増 減 (②-①)
	宿泊	1,700	1,343	▲357
	食事	12,000	8,863	▲3,137
	貸館	180	63	▲117
	リネン	2,000	1,054	▲946
	教材	2,000	1,615	▲385

利用者の声とその対応状況 ※利用者アンケートの実施（有・無）

主催事業参加者及び受入各団体に対し利用者アンケートを実施している。

各事業の利用者満足度に加え、新型コロナウイルス感染症対策に関わる要望に沿うよう実施した結果、十分に満足できるとの回答を得ている。新型コロナウイルス感染症対策の緩和に伴い、都道府県等の往来の制限も緩和されたことから、令和4年度においては利用者数も上昇に転じてきた。

4. 自主事業の実施状況

単位：人、千円

事 業 名	利 用 者 数	収 入	支 出
伝統体験「そば打ち～春～」事業中止	0	0	0
生涯学習応援「俳句会 春」事業中止	0	0	7
家族でキャンピング	14	54	51
大人の冒険ハイキング	8	12	17
生涯学習応援「俳句会 秋」事業中止	0	0	3
親子で釣り体験	7	16	26
伝統体験「そば打ち～新そば～」	64	112	84
食のイベント「Xmas」	45	71	53
伝統体験「としな作り」	33	43	40
伝統体験「そば打ち」4月中止分2/25～27	33	74	64
伝統体験「べこもち作り」	34	56	41

5. 個別項目評価 ※指定管理者と市の所管課が評価

評価基準A（優 良）：計画された業務水準を大きく超える、独自の取組を実施するなど、特にめざましい成果があった。

B（適 正）：計画された業務水準を概ね達成した。

C（要改善）：計画された業務水準を達成できなかった。

評 価 項 目	自己評価	市の評価
(1) 施設設置目的に添ったサービス向上に関する取組み状況		
①開館時間、休館日等を守り、施設利便性の確保に努めたか。	B	B
②施設の使用許可、使用料減免等が適正、円滑に行われたか。	B	B
③利用者に対する接客マナー等、職員の勤務態度は適正だったか。	B	B
④利用者の意見を聴取し、それらを反映する取組みを行ったか。	B	B
(2) 利用促進に関する取組み状況		
①施設利便性を高める努力を行い、効果が得られたか。	B	B
②潜在的な利用者等に営業広報活動を行い、利用アピールをしたか。	B	B
③自主事業を企画・実施し、効果が得られたか。	B	B
(3) 効率性の向上に関する取組み状況		
①施設管理経費を低減するための取組みを行い、効果があったか。	B	B
②収入増を図るための取組みを行い、効果があったか。	B	B

③職員の資質・能力向上を図る取組みがされたか。	B	B
(4) 施設の適正な維持・管理に関する取組み状況		
①施設の維持管理、運営に当たる人員配置は適正であったか。	B	B
②設備・備品の維持管理及び修繕が適切に行われたか。	B	B
③労働関係法令等を遵守し、適正な管理を行ったか。	B	B
④利用料金の収受及び施設管理経費の支出は適正であったか。	B	B
(5) 平等利用、安全対策、危機管理等に関する取組み状況		
①利用者が平等に利用できるよう施設利用情報提供に配慮したか。	B	B
②日常の事故防止等の安全対策は適切であったか。	A	A
③防犯、防災対策等の危機管理体制は適切であったか。	B	B
④利用者の個人情報保護は徹底されていたか。	B	B

6. 指定管理者総合評価

<p>⑥指定管理者は当該評価期間における自己評価を記載すること。また、個別項目評価をCとした場合は、改善策も記載すること。</p> <p>今年度も本振興会で策定した「新型コロナウイルス感染対応マニュアル」に基づき、利用者及び施設の安全を確保するとともに、利用促進を図り利用料金の獲得とともにサービスの向上に努めた。</p> <p>令和4年度の利用状況は、利用団体数262団体（前年度203団体）、利用人数4,690人（前年度2,964人）、利用延べ人数6,156人（前年度3,619人）となり、前年同時期と比較し、利用人数は1,726人増加し、利用延べ人数は2,537人増加した。施設利用を複数団体が利用できるように変更したことや事業等を2日間開催にして利用者ニーズに合わせた募集方法の改善を図った。また、スポーツ団体や高齢者団体の利用が増加したことで利用人数の増加に繋がった。</p> <p>評価項目「(5) ②日常の事故防止等の安全対策は適切であったか。」をA評価とした理由は、事前に活動エリアの点検を行い、施設内に作られた多くのハチの巣を速やかに駆除し対策を講じたことで安全に活動できた。</p> <p>また、日常点検を実施し、冒険の森の遊具やハイキングコースの階段等、施設内の様々な不具合に対しても迅速な対応を行った。さらにはキャンプセンター前の松やミニキャンプ場の杉といった枝の落下の危険性がある箇所も伐採し安全に施設を利用できる環境を整えてきたこともA評価とした要因となっている。</p>
--

7. 市の所管課総合評価

<p>⑦所管課は当該評価期間における総合評価を記載すること。また、個別項目評価をCとした場合は、指導内容も記載すること。</p> <p>令和4年度は新型コロナウイルス感染症による影響からの脱却を目指し、利用者及び施設の安全を確保しながら運営を行うことができていた。年度当初こそ飲食を伴う事業については、拡大状況を踏まえ中止とした事業もあったが、確実にコロナ禍以前の利用に戻りつつある。</p> <p>評価項目「(5) ②日常の事故防止等の安全対策は適切であったか。」については、施設内に多くある樹木に対して、事業をする上で安全を第一に考え、柔軟な経費運用により、伐採を行って環境を整えたことから評価をAとした。今後も豊かな自然とそれを適切に管理することの難しさを両立させるべく励んで欲しい。</p> <p>利用者については、少子高齢化という変化により、従来のターゲット層の変革を迫られてきているが、それを踏まえた事業の展開ができていると考える。市民の利用が第一だが、市内にとどまらず、市外、県内、県外へも施設の存在を示すことにより、下北自然の家の価値を高める努力をお願いしたい。</p>
